

経営比較分析表

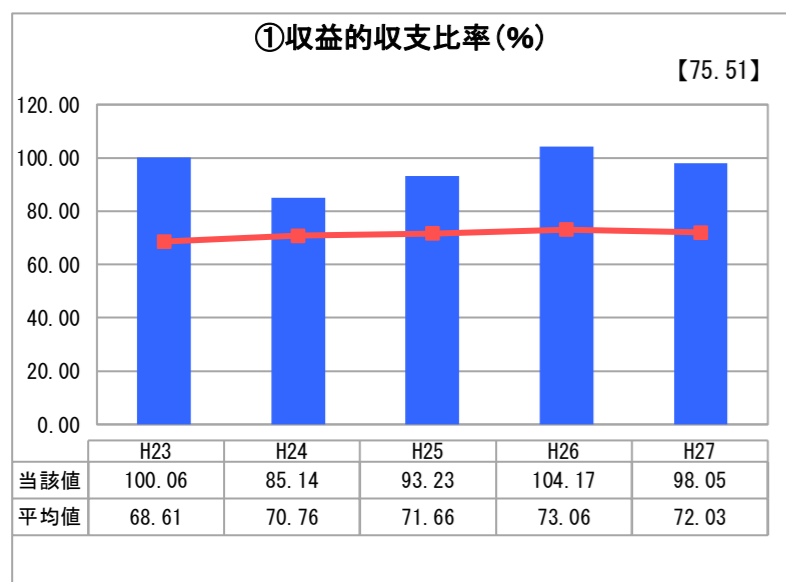
北海道 神恵内村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	97.79	3,600

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
923	147.80	6.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
883	2.57	343.58

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



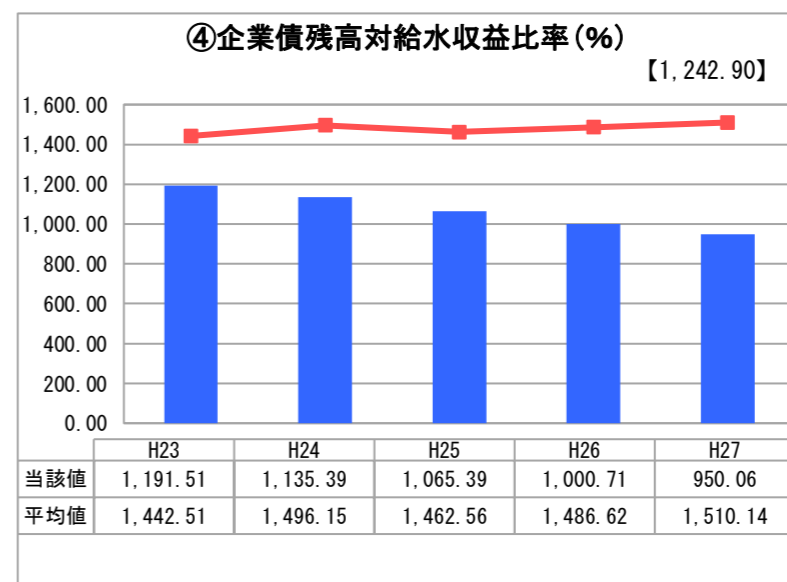
「単年度の収支」



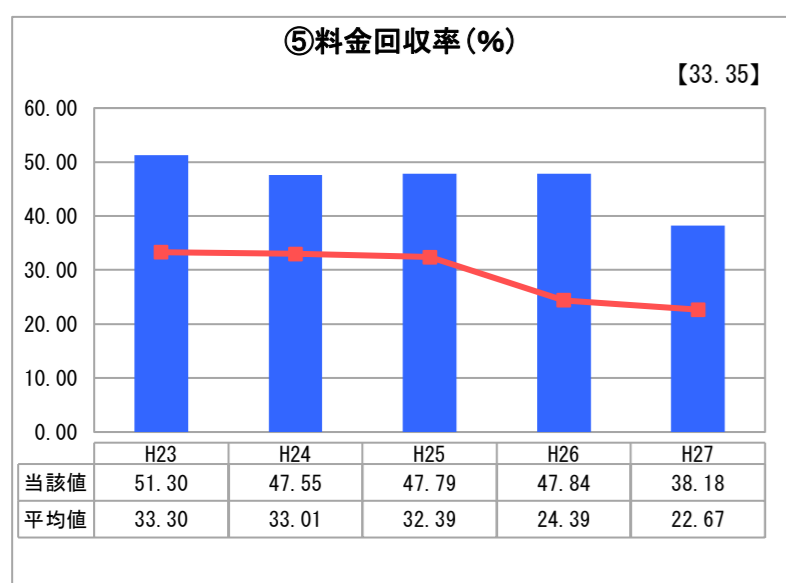
「累積欠損」



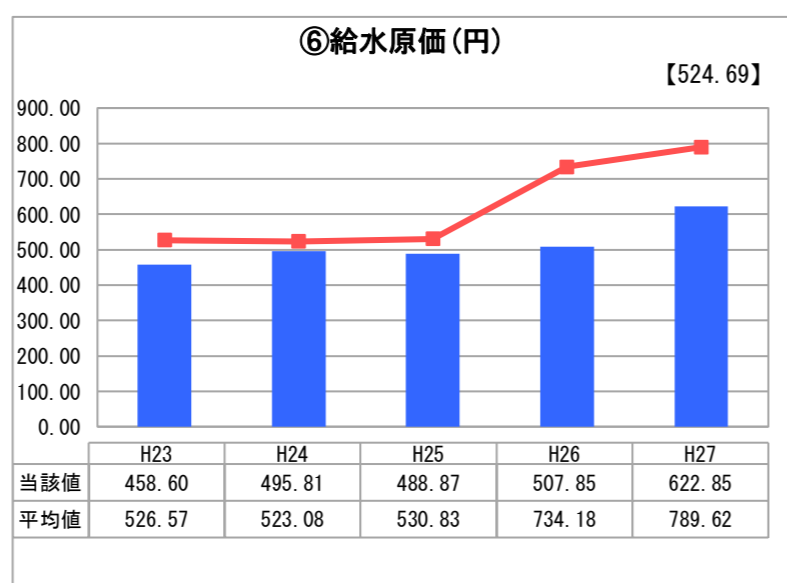
「支払能力」



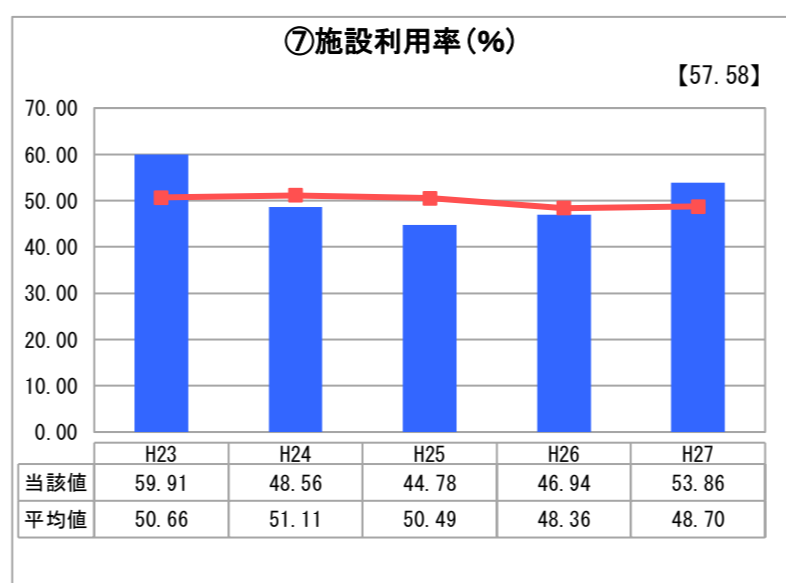
「債務残高」



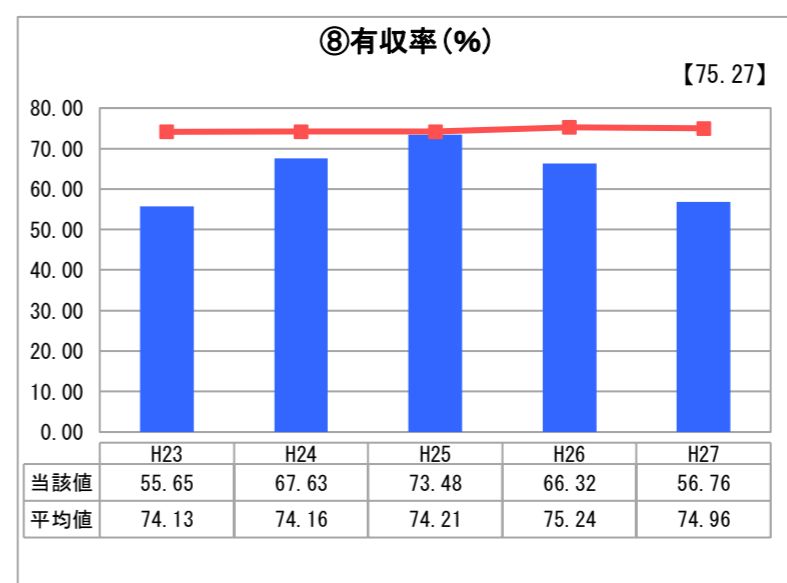
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

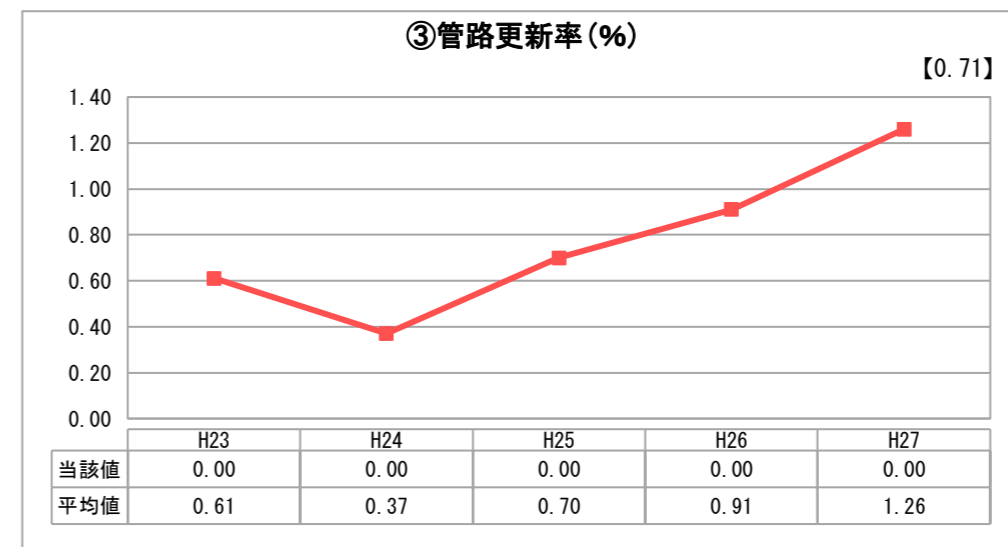
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①過去5年間、収益的収支比率は類似団体の平均値を上回っているが、料金回収率は約50%を下回っており、この不足分を一般会計繰入金で賄っている。平成27年度には簡易水道事業2事業を1事業に統合するなどの対策を行った。平成28年度には経営戦略の策定をして、その計画を元に改善を図る。今後は施設等の老朽化による更新費用の増大が見込まれるため、財源確保及び料金改定等を検討する必要がある。

④企業債残高は減額傾向ではあるが、施設等の老朽化が見られ、基本計画と平成28年度に作成する経営戦略を元に、計画的に改修や更新を実施するため、増加が見込まれる。

⑤⑥料金回収・給水原価は、人口減が主な理由で料金収入は減少傾向にある。今後も一般会計からの繰入金で補填しつつ、財源確保及び料金改定等に対し検討しなければならない。

⑦施設利用率は類似団体の平均値とほぼ同じ数値を示し、平成27年度においては平均を上回っている。よって施設は適正に利用されている。

⑧漏水調査や老朽管の更新を計画的に進め、これ以上有収率が減少しないよう、対策をする必要がある。

2. 老朽化の状況について

管路については、老朽化対策として更新を計画している。平成27年度には管路の基本計画を作成しており、平成28年度には経営戦略を作成する。その双方を踏まえて検討し、耐用年数を超過したものや、超過間近な管路を対象に更新を図っていききたい。

全体総括

●今後、給水人口の減少が予想されることから、計画的なコスト削減が課題となる。当村は収支の不足分を一般会計からの繰入金で賄う状態にあるが、管路の基本計画と平成28年度に作成する経営戦略を元に、料金回収率の向上や給水原価の見直しを検討し、財源確保や管路更新、経営改善を図る必要がある。

●情報共有として、ホームページ・防災無線を有効に活用する。

●民間業者との連携強化については、当村に民間業者がないため、困難である。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。